夕刊 磐城新聞
四月十五日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は西の風曇後晴
明日は南西の風一時曇風强かるべし

閑談夜話

平華生

○署長は居るかッ

某年某月某日常磐線丁町の警察署の受付に六尺近くの威風堂々たる肩章帶劍厳しい白髪交りの男が『署長は居るかッ』、豪い劔幕で現れた。受付の巡査が膽を拔かれて恐る〳〵來意を聞くと『君じや判らん署長に直談判せにやならん』と云つて聞かないので、そのことを署長に話すと兎に角會つて見ようと云ふので署長室に通されたその男は田端機關庫仕勤の機關手で○松○藏と云ふ當時有名な快男子。どうして此處へやつて來たかと云ふと、十日ばかり前の夜取手藤代間の或る無着手の踏切附近で○松の運轉して居た貨物列車に飛込自殺があつた。四囲の狀況、其他から判斷して際然自殺と云ふことが判つて居るにも拘らず、何度も丁驛を通じて田端機關庫の方へ關係機手を取調べたいから當署へ出頭する様にと電話がかゝつた。處が○松機關手は一體丁警察署は平素からやかましくていかん尿を放つた様な事でも一寸來い一寸來いと呼び付けて嚇かす。今度の如きははつきり自殺と判つて居りながら五月蠅く云つて來る。そんなのに行く必要はあるもんかと行かうとはしない警察の方でも自棄になつて終に召喚狀を機關庫主任の方へ打付けて來た。主任も弱つて因果を含めて、○松機關手に公休をやるから行つて來る様にと勸めた。○松は不承無承で、その頃の鐵道判任官の禮裝である金ピカの肩章を付け、金飾付の短劍を下げて堂々と出懸けたのであつた。そして大に鐵道の特異性を説き、高、長交通機關に從事するものに對してはもつと理解を持つて貰はにや困る自殺なんかは單に書面報告だけに止めてくれと强談判に及んだ。流石の署長も辟易して向後は大に考慮すると云ふことになり、その後同署の考へ方が大分變つて來たので皆んなが喜んだこの男に就てはまだ種々のエピソードがある。とに角元氣で奇行に富んで居つたが技倆も優秀だつたし、職務も頗る熱心なので六十近くまで在職した。

向河原の櫻

岩丈
南樹

○甍敗いて晝餉休みや花の土手
○春泥や素足の美人艶めかし
○店頭の蜜柑轉ろぶや春の泥
○水溫む櫻の下や渡舟
○春猫に呼び起されぬ京の宿
○磐梯の裾野のや雲殘る雪
○春の泥踏んで社頭の植樹かな

ちやがま

生方美智子

蟲の鳴くよに
ほそいこゑ

一日ちまやまが
ないてゐる
けむりは山の
きりのやう

その日〳〵

千亦

○
朝の湖靜かに晴れたり
此の岸にして彼の岸にて雉よびかはす

送高屋司税官榮轉米澤

珠雲 小野務平

定々多年若聖昭
人推令德與精誠
即今直向羽陽去
出谷關々黄鳥鳴

4月16日

△畫家ゴャ歿（一、八二八）△佛小説家アナトール・フランス生（一、八四四）スペイン・カタロニャ政廳內閣改造さる（昭和一二）

講談 髑髏組（どくろぐみ）

(165) 林杢兵衛作 金子士郎畫

悲戀の地獄道(三)

飛び退くと同時に、吐き出した侮蔑、空を斬つたはずみに、くらりと廻つた權十郎が、狼狽して向直らんとするその細首へ、刑部の愛刀彦四郎貞宗が宇宙に旋ぢを描いて飛んで行つた。

と、その瞬間、濡れ絹を打つやうな音がしたと思ふと權十郎の首が、生胴を離れて、地上に立つた。何んたる凄慘…………。

一氣一刀よく敵を倒した刑部が、返り血を浴びて、武者振ひと共に振り返ると殘つた小六が、臆病神に誘はれて、眞一文字に逃げ出した。

『待てッ』大聲叱呼と共に咄嗟に投げた斬奸の利劍が曉の大氣を突いて流星のやうに、逃げる小六に追ひすがつた。そうして背後から胸板へ、噴水のやうな血飛沫が散る。

死の土壇場に藻掻き拔く髑髏組の一味には目もくれず、そのまゝお咲の監禁されてゐる京橋の矢の倉へ馳けつけた。

勝手知つた二間ッきりの裏長屋、血眼になつて探しても、其處には可憐なお咲の姿が見當らない。

『うむ、確かに此處だ』

獨言と共に、奥の押入れを開けると、果して蒲團卷きにされてゐる、お咲の姿が目についた。

解く間ももどかしく、お咲を確かと抱き締めた刑部の目には、熱涙が浮んでゐる。

『定めし苦しかつたであろう、でもよく無事でゐて與れた、もう大丈夫だよ。お前を虐めた惡い奴等は、此の小父ちやんがみんな仇敵を討つてやつた、さ、確つかりして、小父ちやんの背中につかまつておいで、おんぶして連れて行つてやるから』

『小父ちやん、何處へ行くの――』

直ぐに元氣を恢復したお咲は、嬉しさうに刑部の背中へ齒嚙みついた。

『いゝ處へ行くんだよ、屹度お前を可愛がつて與れる小母さんのところへなあ』

『そこで、小父ちやんもあたいと一緒に居るの』

『うん、そうすると本當にいゝのだがなあ、小父ちやんは少し譯があつて』

『嫌やだ〳〵、小父ちやんも一緒でなければ、あたいは嫌だ』

押問答をしてゐる時、俄に聞へる捕手らしい亂れた跫音。刑部が身構へる暇もなく、表戸を排して、闖入したのは、岡っ引矢の倉茂十と、黄房の源七だつた。

刑部は、確つかりお咲を背負つたまゝ、群り寄る捕手の中へ飛び込んで行つた。

『お手間は取らせぬ、此の子を預ける間、暫らくの間御猶豫が願ひたい』

言葉を盡して哀願したがさんざ髑髏組で手を燒いてゐた茂十と源七は、頑として諾き入れなかつた。

『話に聞けば、お前さんも二本差のお侍。今更逃げるたぁ卑怯ちやあ御座んせんか』

『決して卑怯な逃げ口上ではない。此の子が不憫、何卒暫らくの御猶豫を』

『出來ねえつてえのに、解らねえのか。構はねえから搦め捕れッ』

捕方は、茂十の下知を待たなかつた。そうして遮二無二組みつく十手の勢ひ、刑部はどうにも避ける術がなかつた。强いて逃げやうとすれば削り開いても逃げられぬことはないが、既に決心の肚を固めてゐる刑部は、徒らに重ねる殺生は好まない。

次回讀物豫告 隱密小天狗

中川雨之助氏作
近藤鐵氏畫

梗概（上）

由比正雪、丸橋忠彌一味の策謀に依る徳川幕府顚覆の陰謀。所謂慶安の亂は、その初めに當り、早くも正雪に疑惑を向けた時の老中[illegible]松平伊豆守信綱の[illegible]依[illegible]、破壞されて了まつたのである。

智慧伊豆と呼ばれた伊豆守は、舊家臣の子息で、當時柳生但馬守の道場で、小天狗と呼ばれてゐる青年劍客戸田俊作を拔擢して、ひそかに隱密の役[illegible]藩主伊豆守の知遇に感激し、同時に徳川幕府の浮沈にかかる重大使命を負ひた俊作の、苦心慘憺たる隱密生活は、茲に始まつた。

彼は、神田雉子町の湯屋津國の湯女小夜美のもとに通ひ、日夜酒色に惑溺した一方、丸橋忠彌と交りを結び、忠彌の短慮と、輕卒とを巧に操縦して、目指す正雪に接近したが、警戒怠りなき正雪は、彼を試みんとして、小美夜の身受けをして彼の許に贈つて來た。俊作は殊更に甘んじて、それを受けなければならなかつた。

斯して彼が遺憾なく放蕩振りを發揮して居ると、それを腹からの墮落と信じたのは彼の妹駒路の許婚である青年武士綾瀬主之助であつた。

廣告

簡易ノ金融
磐城無盡
貯蓄ノ趣味
縣內各町出張所

恐るべき中風、腦溢血を速治せしむ
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉體的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）弐圓
四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）弐拾圓
專賣店 山野邊藥局 平市五丁目（電呼六六八）

晝 夜 診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
〔血液檢查毎日〕平市新川町〔電四六四〕
イツデモ入院デキマス。
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

根本產科婦人科專門醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（手術室完備）（入院隨時）

內臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
新炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三七番
平驛前 阿部石炭店

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

和洋 建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歳以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

◎社員招聘
一、外務員 若干名
（イ）年令二十五歳以上五十才以下ノ男子ニシテ身體强健、身元確實、努力ノ人
（ロ）希望者ハ履歷書持參來社ノコト
（ハ）給料、手當其ノ他面談
右業務擴張ノ爲メ優遇招聘ス
營業科目 公債、債券、現物賣買 金融
平市鍛治町十八番地
日本商事株式會社平支部
電話七三六番

獨特の珈琲とWINE
紳士の喫茶店
グリルバツカス
サービス料一割（外拜辭）
平市銀座通りTEL七〇二
女店員募集
年齢十七才位より廿五才位まで
月給四拾圓以上支給漸次昇給
待遇衣裳貸與食、
何の氣苦勞もなく朗に働ける固定給料です
眞面目に働きたい方餘裕な生活を望まれる方は至急御出下さい
懇切に御指導致します

和洋銅物金物問屋
平市五丁目
釜屋商店

實用新案第一八七四三〇號
意匠登錄第六六一一六七號
石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絶對安全！、御使用に御便利な！
石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。

お値段（四圓…全部 三圓…普通）
（弊院パーマネント部の一部）
水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電六七八番
自宅 電五二五番

御得意樣への御禮に！
パーマネントウエーブは
今や世界的流行であり、す

雨に奏づる惜春譜
人氣は葉櫻に爆發か
呆氣無かった今年の花

天無情

縣社子鍬倉神社の宵祭りに相當する明後十七日の日曜迄は待たせ度いと念願されたが松ケ岡公園の櫻は、既往兩三回の雨に加へ今十五日朝迄持ち越した夜來の風雨にすつかり傷められて今日あたり繽紛の形容も些か大袈裟乍ら漸く道も狹に落花の風情を見せ初めた。一体今年の花は所謂非常時意識の緊張が極度に影響した處へ、搗てゝ加へて季節柄あるまじき寒波の連續に祟られて、終始人の出足を鈍らせて盛夜に亘る藝妓屋組合の健闘など、市の繁榮と花の平を彩る甲斐／＼しい努力をよそに近來に無い寂しさであつた。斯くして今年の春は極めて呆氣なく逝つて了ふのであるが、うそら寒い花時の陽氣に鬱積した人々の、三春の行樂氣分は近く正常に復歸する春氣分と共に爆發するが必至の勢ひで、眞近かに迫つた葉櫻の季に埋め合せが附けられる事となるべく今度の雨に花は頻りに散り敷くものゝ、春を樂しむ人々の心は松ケ岡の全山に淺黄の幕を垂れる葉櫻の新綠と、閑老安藤公の銅像下に地上のあらゆる色彩を總動員する三百種二千餘株の躑躅が咲き誇る晩春に繋げられてゐる

我も一役御奉公
國債で
第一日の平局で
午前中五千圓餘を賣る

支那事變國債第三回郵便局賣出しは昨報の如く今十五日から開始されたが、朝來の降雨にも拘らず、平局割當て一萬七千九百二十五圓、午前十一時前早くも
五百圓八枚 百圓十二枚
五十圓二枚 二十五圓三枚
合計五千三百七十五圓が飛ぶ樣に賣れ、爾餘の約三分の二も一兩日中に賣り盡す氣配に在り『國債で我も一役御奉公』の銃後意識が歴然と浮んで居る

銃後農産物
生産確保に補助金

銃後農產物生產確保のため縣では冷溫床並に被覆苗代の設置を獎勵し農林省より助成を得て坪當り冷溫床は五十錢、被覆苗代は四十錢づゝの補助を與へることゝなつた、郡下には被覆苗代はないが冷溫床は二ケ町村百坪あり縣では目下手分けして設置指導に當つてゐる、なほ被覆苗代の設置は從來試驗的に行つてゐたが實地に設置するのは今回が始めてで成績如何と注目されてゐる

丸山軍曹 市葬

今次事變の華と散つた市內五丁目出身軍曹丸山芳春君は此程戰死した旨原隊發表 同君は十年間勤續の優良火夫、妻子三人あるまだ磐炭社宅には公電がない

の遺骨は今十五日午後六時二十二分着で無言の凱旋、市では來る二十二日頃市葬に附す筈

○和紙生產地視察 關西學院教授で和紙の研究家として知られてゐる壽岳文章氏は帝國學士院の依囑で郡下の和紙生產地を視察 十七日湯本町 十八日上遠野村 入遠野村

○傷病軍人支部結成 平市並に郡北(久の濱を含む)關係者で傷病軍人平支部を結成、來月十日の忠魂祭當日平市で發會式擧行

投槍
投書歡迎

○青年學校義務制に就て。
◇去る一日青年學校義務制施行なる見出しにて配達されたるチラシありき。其の文中『滿十二才より滿十九才迄の青年は皆入學せねばなりません市は促進期として本年より入學せしむる方針です』との一句當局の過當なりや否や。
◇小生本年本 月にて滿十八歲七ケ月中等學校を卒業して高遠なる理想の下に來年高校を受驗せんとして目下猛勉強中の者なり。當局よ！文によれば全て青年たる者青校に入學せねばならずとのこと果して然るや否や。現今の中等學校卒業生の年令を見ずや、皆十八十九才にあらずや。然らば彼等皆入校せざるを得ざる者ばかりなり。
◇法規により て强制入校ならばせんかたなしと雖もこれによれば中等校二、三年程度の學科を授くるにあらずや。否卒業生に授くる學科の準備ならば小生の錯誤なる故深く謝す。
◇されど準備 ありとは考へられず、小學卒業生を入校せしめる事は後記により判明せしが當局よ！知らずや!!!受驗生如何に眞摯なる態度にて勉強中なるかを。必中勉強の二字のみにて針尖なる時かくなる冒頭文を見て一驚せるは小生一人ならず在學生は勿論不幸一敗地にまみれし小生と境遇を同じうして雪辱の意氣に燃ゆる幾多受驗生としては躁怒の一文、眞否に惱まされて身入らず敢て當局の謝文に接せんことを期待す。
(受驗生)

松崎丑松翁 市內中

平窪市議松崎松治氏嚴父丑松翁は昨十四日逝去した翁は天保十二年七月十九日生れの九十八才、平市內の最高齡者であつた

——なんと云つても春は『春』だ。公園內のどよめき。

眞に老幼一如
平地方の書道熱
近來著しき進境を示す

平地方に於ける書道熱は兩三年來特に著しく、罩り有閑階級の好事家許りで無く市第二小學校の女兒の如き低學年より學校及び私塾の指導を受け目覺ましき進境を示しつゝ、極めて輝かしき將來を約束されて、中には年少子女の手續とも思はれぬ迄非凡な天才的閃めきを見せて居り『書道タヒラ』の昨今頗る旺盛なるものがある。因に之の方向を示唆するものとして市民周知の健筆に紺屋町口縣社子鍬倉神社門標(日下部鳴鶴)同社旗(嚴谷一六)中活版所看板(同上)松ケ岡公園卅町口表門(井上圓了)などがあり、其他地方有志家中には風韻漂渺一見清風腋下に生ずる底の珍藏も少くない模樣である

○自轉車で怪我 市內新川町草野某(三)は十四日午前九時頃材木町地先で同町阿部傳六二男弘(四)君を自轉車にひつかけ前額部に要一週間の傷害

○青沼市長參列 青沼平市長は今十五日原隊で行はれた兩角部隊戰死者慰靈祭に列席のため出張

○女教員會 平市及郡下の小學校女教員會を二十四日(日)平第二小學校に開く

長期應戰に備へて
綜合的防空大演習
七月中縣下一齊實施

昨秋及び今冬行はれた單一的防空訓練を經て燈火管制警報傳達の個別的成果は充分確められ、細則も設定されたので縣では來る七月中に綜合的防空大演習を行ふ豫定の下に目下準備中である今度の大演習は凡ゆる方面を總動員、各部門に亘る全般的訓練をなし長期戰に備へて新らしい局面に萬遺漏なきを期するもので小學校兒童も總動員簡易マスクを作成せしめ一朝有事に於ける用意をする外警報傳達の最高方法たる强馬力サイレンの設置をも慫慂する方針である

互融會取調進む
三年間の惡の蓄積
近く全貌判明か

細民階級から血の出るやうな金を吸ひ取つた例の磐城中小商工互融會事件は去月十九日斷乎檢擧の手を染めて以來引續き中心人物吉田昌弘(四九)村山三郎(五九)の兩名を留置のまゝ犯罪內容の糺明に當つてるが何せ同會が過去三年間の長きに亘つて延ばした惡の蓄積であり、その被害者も一萬人近くに上つてゐることなので中々容易なことではない、引續き事務員數名を卅日召喚出頭目帳簿の出納を追究して居り證據物件の書類も司法室に山積してゐる、檢擧以來今十五日で既に二十七日間、このインチキ互融會の全貌も愈よ暴け出される日も近いことであらう 尙留置中の吉田はさき頃一時血壓が高かつたが今では大したことではないといふ

○高久新消防組頭 高久消防組頭鈴木喜太郎氏の退職によつて副組頭鈴木重次氏昇格に決定

前借踏み二件

白河町向新藏遊廓村松樓こと樋口トメ方抱娼妓石川郡母畑村生れセン二女大串カツ(二四)は去る十二日午前三時頃登樓客の自稱公家普通(三三)と牒し合せ前借四百五十圓を踏んで逃走、郡內に入り込んだ形跡があるからと抱主から平署に捜索願

[illegible] 方 前借 [illegible] の娼妓生 [illegible] 子と名乘つ [illegible] 岩代 [illegible] 四日郡 [illegible] ンを [illegible] へ [illegible] 潜伏して [illegible] 山署に捕は [illegible]

差當り該當無し
地方と營收稅輕減

昨報、臨時租稅措置法により六千圓未滿の個人の營業純益が平均利益(昭和十一年以前三年の平均利益)に比して二割五分以上減少した場合營業收益稅が△減少割合二割五分以上三割未滿なるときは稅額の二割△同三割五分以上五割未滿は三割△同五割以上七割未滿は四割△同七割以上は五割の割合で輕減される事となり、今十四日が申請期間であるが以前の不況時代と異り昨今の時節柄平稅務署管內には差當り該當者が無い模樣である

辭令

縣道路技手 木村多平
命平土木監督所勤務

巷の挨拶

◇夜櫻見の酒にスッカリ呑まれた同僚を背負ひながら松ケ岡の裏口から出て來た職人風の男、背の男を搖りあげながら『アー疲れた、こまつた野郎だナ』と長嘆息、すると件のグロッキー君廻らぬ舌で『俺はなんでもねえ、こまつてんのはおめえたつぺ』となるとどちらが醉つてゐるんやら

陣中を聽く
(131)

漸く春色を帶びて
山野一面に躍る生氣
市內上平窪出身 草野幸君(通信)

——不肖出征後は家族に對しては一方ならない御厚志に預かり、加之御多忙中にも拘らず態々遠方に在る不肖實家迄御慰問下され深く／＼御禮申上げます。全く地方に於ける銃後々援會の皆々樣また各團体の皆樣より種々御多忙の折柄斯くも御厚志を御寄せ下さる事を聞き及び遠い戰地に在る我等は毎日感激して居ります、今後共何分よろしく御禮申上げます。

小生も渡支以來所々轉勤し二月末日より津浦線嘉山縣驛に警備致して居ります幸にも嘉山縣に參りましてからは一度も敵襲も無く時折は線路妨害或は隣驛の張入嶺等に敵襲の爲襲來したる敵の掃蕩に出動致す外驛鐵道の警戒に任じ居りますが頗る元氣に過し居りますから御安心下さい。

當方は春陽の候とて丘の柳は日を追ふて綠色を增し野邊の草花も靑く咲き初め畑の麥は靑々と全く心地よき春となり勤務も樂になりました。

勇往敢爲な青野少尉
元入山從業員 淺野保雄君

目下中支〇〇地に居ります、近頃はめつきり暖くなり淩ぎ良くなりました、我が警備地區內には支那兵士は居りません、たまには老人子供が見受けられます、働き盛りの者は無論働き得る者は全員支那軍に使役されて居るとの事ですが我が警備地區內には最近まで相當の敵兵が居りましたが過般來之が討伐を行つた結果今では餘程少くなりました先日陣中にて偶然にも石井部隊青野〇隊の生殘り兵と會ひまして敵前上陸當時の苦戰談を聞きました殊に青野輝雄少尉殿の勇敢なる行動を聞き自分の事のやうにうれしく思ひました、過般の戰鬪に於て日野伍長は實に勇敢で有つたが名譽の負傷なし惜しい事には內地還送になつたとて〇隊內では非常に惜んで居ります

軍用馬鍛錬會陣容成る

會員四十名を擁して此程結成された平、內郷、飯野聯合軍用候補馬鍛錬會の發會式は今月中擧行、今後毎月一回銃後に備への訓練を行ふと、陣容左の如し
會長青沼市長 副會長沼田內郷 伊藤飯野兩村長 幹事金澤內郷助役 永山飯野 渡邊平兩勸業主任 指導員荒川一郞(平)志賀一男(內郷)

後藤上等兵戰死

內郷村磐城炭礦住吉坑火夫山形縣東村山郡山邊町出身上等兵後藤莊太郞

十六日
(小名濱測候所發表)
滿潮 前四、四〇 後六、一〇
干潮 前一一、五五 後一一、四五

舊三月十六日 新四月十六日 土曜 戊寅 赤口 開 胃宿

鑑定所 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神宮館

▲一白 順調には向へども相談事は不調と知るべし▲二黑 一家能く氣が揃ひて圓滿りに仕事の運ふ日▲三碧 內外協調を保ち健全に進めば出世の途開く▲四綠 苦を通り拔けて追ひ追ひ吉運に向ふ日たり▲五黃 緩急共の宜しきを得ば窓外の發展を見る日▲六白 定業以外の事業には成るべく手ひかへを要す▲七赤 川に臨み舟橋なき如く進路のふさがり勝ちの日▲八白 氣を締めて勵めば物事通達すべき吉日たり▲九紫 迷ふことあらば長者の意見に依るが安全なり

代理店 魁文堂
雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ニコ／＼印高級ソロバン
ドンコ帳簿。ライカ帳簿
ウエル萬年筆
ライトインキ
ムツソリイニペン
ゼネラル、カーボン紙

廣告

おでん
一平(イッペイ)
電話二六三番

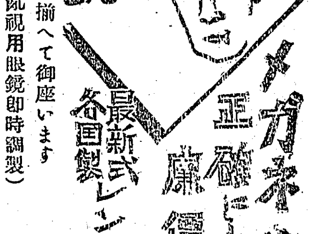
磐城名物
靈峰羊羹(れいほうようかん)
小川郷驛前
平屋賣店

六櫻社技師 長濱慶三先生實地指導
春の大撮影會と講演會
四月十七日(日曜日)
午後一時ヨリ平市公園
午後四時ヨリマルトモホール
會費無料 全カメラマンの參加大歡迎
優秀作品 密書引伸各部十名宛入賞
主催 磐城寫友會 (事務所 平二 西村屋方)
會場整理の都合上入場券事務所宛申込まれ度し
最後の仕上げ引伸には さくら印畫紙 中石 調八重 硬調 柔弁

四月十八日縣社子鍬倉神社御祭禮ニ付臨時休業仕り候
[illegible]銀行組合

[illegible]生徒募集
ミシン科 洋裁科 刺繍科 研究科
◎毎月入學(一日、十五日) 規則書進呈
平市田町シンガー洋裁女學院

シンガーミシン(新品中古 現金月賦 又販賣)
◎カタログ進呈
平市田町
シンガーミシン會社支店


眼鏡
メガネは正確に廉價
最新式各國製レンズ
富豐に取揃へて御座います
(亂視用眼鏡即時調製)
根本時計店
平市二丁目 電話六七

日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
平市紺屋町 三六
鑑定項目
名前でみた一代の運命 何んでもわかる……
體力(肉体 疾病)(健康、不健康、相貌)(病根病勢 病名に關する一切)
活動(職業 天運)(適業、不適業)(天運、不成功、炎厄に關する一切)
血緣(家族運 男女緣)(父母の緣、夫婦の緣 子供有無)(氣質、相性、相尅、婚期方位に關する一切)
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名